



天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会
(令和元年9月8日、秋田県秋田市)

CONTENTS

第39回 全国豊かな海づくり大会	2
増殖推進部 栽培養殖課	
天皇陛下「おことば」	5
漁業における海洋プラスチックごみ問題について	6
増殖推進部 漁場資源課	
編集後記	8



天皇陛下御即位記念

第39回

全国豊かな海づくり大会

大会決議

我が国は四方を海に囲まれ、人々は古来より海と親しみ、豊かな海の恵みを享受してきた。

ここ秋田県は、世界自然遺産の白神山地^{しらかみさんち}など雄大な山々を有し、そこから流れ出る清冽^{せいれつ}な水がやがて日本海へと注ぎ、米どころ秋田をさえる肥沃^{ひよく}な大地を形成し、豊かな歴史と食文化^{つちか}を培い、地域産業の発展に重要な役割を担ってきた。

我々水産関係者には、水産資源を守り育てつつ、安全で美味しい水産食料を安定的に食卓へ提供し、併せて環境・生態系保全の取組により、豊かな海を永続的に育む責務がある。

新たな令和の時代を迎え、ここ秋田県において、「海づくり つながる未来 豊かな地域」をテーマに、豊饒^{ほうじょう}の海を次世代に引き継ぎ、水産業の振興に向けた取組を一層力強く進めていくことをここに決議する。

令和元年9月8日

第39回 全国豊かな海づくり大会

第39回 全国豊かな海づくり大会について

増殖推進部 栽培養殖課

去る9月8日（日）、天皇陛下御即位記念第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会が、「海づくり つながる未来 豊かな地域」を大会テーマに、第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会及び豊かな海づくり大会推進委員会の共催により、農林水産省及び環境省の後援のもと、秋田県秋田市で開催されました。

全国豊かな海づくり大会は、水産資源の維持培養と海や湖沼・河川の環境保全に対する意識の高揚を図るとともに、水産業に対する認識を深めるための国民的行事として、昭和56年から毎年開催されており、本年の大会は、天皇陛下御即位記念の慶祝行事として開催されました。

大会当日は爽やかな秋晴れの中、式典会場である秋田県立武道館に全国各地から約770人、海上歓迎・放流行事会場である秋田港飯島地区に、約360人の水産関係者等が集まりました。

式典は、天皇・皇后両陛下御臨席のもと行われ、大会旗入場に引き続き、加賀



©2015 秋田県んだッチ

第39回大会キャラクター
秋田県イメージキャラクター
「んだッチ」

谷弘秋田県漁業協同組合代表理事組合長の開会のことばで幕を開け、最初に大会会長である大島理森衆議院議長が、「天皇皇后両陛下が、上皇上皇后両陛下の御心を受け継がれ、全国豊かな海づくり大会に初めて御臨席を賜ったことへの感謝を述べるとともに、秋田県では、水源から河川・湖沼を経て海に至る生態系のバランスのとれた水環境の保全・管理を通じた持続的な資源の活用を図る取組などにより、水産業の振興と地域の活性化が図られることが大いに期待される。また、先般のG 20 大阪サミットでは、2050 年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにする目標などが合意され、こうした世界的な動きも踏まえつつ、今後とも「豊かな海づくり」のため本大会の発展を図っていくことが肝要である。本日、栄えある表彰をお受けになる方々に対し、心より敬意を表しお慶びを申し上げますとともに、お



天皇陛下のおことば
[写真提供：秋田県]

集まりの皆様には、次の世代へ豊かな海を継承するため、今後とも御尽力を賜りますよう切にお願いする。」と挨拶されました。続いて、開催県の佐竹敬久秋田県知事が、「希望に満ち溢れた新しい令和の時代の幕開けに、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、本大会を開催できますことは、私たち秋田県民にとりまして、誠に光栄であり、この上ない喜びである。本大会を契機として、世界遺産の白神山地や大地を潤す河川、恵みをもたらす日本海など、豊かな自然に感謝するとともに、未来永劫、守り育てる思いと行動の大切さを、将来を担う子供たちにしっかりとつないでいく。」と挨拶された後、開催市の穂積志秋田市長が、「秋田市は、東に出羽山地を擁し、西に位置する日本海に向けて、雄物川などの河川が流れ、その流域一帯には肥沃な秋田平野が広がるなど、自然豊かな田園都市であります。その豊富な水資源は、米をはじめとする農作物に加え、四季折々の海産物を地域にもたらしている。また、秋田港は、「廻船式目」において、日本の十大港湾である「三津七湊」に位置づけられ、江戸から明治にかけては、北前船の寄港地として繁栄するなど、本市発展の礎となった。私たちは、これまで多くの恩恵を与えてくれた海や港への感謝の念を胸に刻み、この豊かな海を次世代へ継承する努力を続けてまいります。」と歓迎のことばを述べられました。

続いて、第 28 回にいがた大会以来、11 年ぶりに天皇陛下より「豊かな海の環境を保全するとともに、水産資源を保護・管理し、海の恵みと美しさを次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命であると考えます。」などのおことば（全文後掲）をいただきました。

続いて、最初のプログラム、功績団体及び作品コンクール受賞者への表彰では、「栽培漁業部門」、「資源管理型漁業部門」及び「漁場・環境保全部門」の3部門からそれぞれ大会会長賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、水産庁長官賞を受賞された団体の代表者と、作文コンクールの「小学校低学年の部」、「小学校高学年の部」、「中学校の部」、「高等学校の部」の4部門からそれぞれ大会会長賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、水産庁長官賞、秋田県知事賞を受賞された受賞者及び絵画コンクール並びに習字コンクールの「小学校低学年の部」、「小学校高学年の部」、「中学校の部」の3部門から秋田県知事賞を受賞された受賞者の代表者に、賞状が授与されました。

秋田県では、激減したハタハタ資源の回復を図るため平成4年9月～7年9月までの3年間の自主禁漁を実施し、全国の注目を浴びました。今回、功績団体表彰の大会会長賞受賞団体を



最優秀作文の発表
[写真提供：秋田県]

代表して賞状を受け取った「秋田県漁業協同組合」は、平成14年の設立以来、ハタハタ資源の回復を図るために県内漁協、漁業者などで構成される「ハタハタ資源対策協議会」の中核として資源管理計画の策定や関係機関との調整に尽力してこられました。その結果、平成16年の漁獲量は禁漁前の約46倍の3,252トンに達し、資源回復を果たしています。近年、ハタハタの漁獲量は減少傾向にありますが、ハタハタ資源の増大のため新たな取組を行うなど

長期的かつ継続的な資源管理の取組が高く評価されました。

賞状授与の後、作文コンクールの大会会長賞受賞者を代表して、小学校低学年の部の秋田県八峰町立八森小学校3年生の小林桜和さんが、作文「海とわたしの家族」を発表しました。作文は、家族で加工を行っているギバサ（アカモク）や前浜からとれるアワビやハタハタに対する感謝の気持ちとそれらの海産物の魅力が多くの人々に知ってもらいたいという気持ちが率直に綴られており、読んだ人々に勇気と元気を与える作文となっています。

続いて、天皇・皇后両陛下より、水産関係者4人に、後日県内各地に放流される「ハタハタ」、「サクラマス」、「エゾアワビ」、「ワカメ」の稚魚等のお手渡しが行われました。

いよいよプログラムも終盤、海づくりメッセージへと移ります。まず始めに、県南部を代表して後継者育成に取り組んでいる佐藤栄治郎・未来さんご夫妻から「これからも、日々、豊かな海への感謝を忘れず、新しい仲間が増えるよう、力を合わせて頑張っていきます。」、県中央を代表して6次産業化に取り組んでいる伊藤徳洋・歩さんご夫妻から「子ども達に豊かな海を引き継いでいけるよう、父や先輩達が築いてきた大切な資源と漁場をしっかりと守っていきます。」、県北部を代表してギバサ（アカモク）の資源管理に取り組んでいる小林優大・雅子さんご夫妻から「豊かな海で育まれた、おいしい海産物を、これからも、皆さんに届けられるよう、全力を尽くします。」と、若手漁業者3組の決意を込めたメッセージが発表されました。続いて、ベテラン漁業者の杉本貢さんより「若い漁師達の、海を守り、育み、未来へ繋ぐ、決意のこもった力強いメッセージ、とても頼もしく感じました。これからも、その高い志を胸に、大いに活躍してくれることを期待します。」と若手漁業者への激励のメッセージが発表されました。

その後、若手漁業者3組による「私たちは、秋田の海に生きていることに感謝して、豊かな海づくりを実践し、未来を担う子どもたちに、しっかりとつないでいくことを、ここに誓います！」との力強い決意表明が行われました。

式典の最後には、岸宏大会推進委員会会長より「我々水産関係者には、水産資源を守り育てつつ、安全で美味しい水産食料を安定的に食卓へ提供し、併せて環境・生態系保全の取組により、豊かな海を永続的に育む責務がある。新たな令和の時代を迎え、豊饒の海を次世代に引き継ぎ、水産業の振興に向けた取組を一層力強く進めていく。」などとする大会決議が読み上げられ、満場の拍手で採択されました。

その後、大会旗が佐竹敬久秋田県知事の手から、次期開催県の村井嘉浩宮城県知事の手へとしっかりと手渡され、式典は終了となりました。

式典終了後は、会場を秋田港飯島地区に移し、大島大会会長、岸大会推進委員会会長、古川農林水産大臣、原田環境大臣らが出席し、海上歓迎・放流行事が行われました。

海上歓迎では、地域を代表する5種類の漁船と男鹿海洋高等学校実習船「NAMA H A G E」及び県漁業取締船「くぼた」の計7隻のパレードが行われました。



天皇・皇后両陛下から稚魚等のお手渡し
[写真提供：秋田県]



海づくりメッセージ
[写真提供：秋田県]



海上歓迎（漁船パレード）
[写真提供：秋田県]

また、稚魚の放流では、大島大会会長をはじめ参加者全員で秋田県の水産業上、重要な魚種である「マダイ」及び「トラフグ」をそれぞれ海に放ちました。

今回の大会の舞台となった秋田県は、東北地方の北西部に位置し、日本海に面した優大な自然に恵まれています。中でも、世界自然遺産の白神山地や秀麗な鳥海山、美しい景色が続く男鹿半島は、国内でも人気の観光スポットです。また、海岸部の約7割を砂丘海岸が占めており、日本海に注ぐ米代川や雄物川、子吉川の三大河川沿いには、米どころ秋田を支える肥沃な平野が開けています。また、秋田県沖は、対馬海流とリマン海流が流れ込むことから、多種多様な魚介類が生息しています。底びき網や定置網、刺し網などによって水揚げされる魚介類は150種類以上で、中でもハタハタやマダイ、北限の産卵場を有するトラフグ、鳥海山の伏流水で育つイワガキなどは、秋田県を代表する水産物といえます。

大会を通じ、こうした秋田県の豊かな自然や食、歴史、伝統・文化など、秋田の魅力や豊かな海を育むことの大切さが全国に発信され、水産資源の保護・管理とつくり育てる漁業に対する理解が全国に広がる契機となったことでしょう。

第40回大会は、令和2年秋ごろに、第40回全国豊かな海づくり大会宮城県実行委員会及び豊かな海づくり大会推進委員会の共催により「よみがえる 豊かな海を 輝く未来へ」の大会テーマのもと、宮城県石巻市で開催される予定です。



稚魚を放流される大島大会会長、岸大会推進委員会会長
[写真提供：秋田県]



第40回大会キャラクター
宮城県イメージキャラクター
「むすび丸」

天皇陛下の「おことば」

第三十九回全国豊かな海づくり大会が、日本海に面したここ秋田県で開催されることを喜ばしく思います。

四方を海に囲まれた我が国は、古くから豊かな海の恵みを受けてきました。また、山や森から河川や湖を経て海へ至る自然環境と、そこに育まれる生命や文化は、私たちに様々な恩恵をもたらしてくれます。

私自身、以前に鳥海山に登った折に、鳥海山の雪解け水がブナ林を養い育て、伏流水となって山麓の田畑を潤し、やがて日本海に注いで良質なイワガキを育てていると聞き、山と海、そして人間との大切なつながりを感じたことを思い出します。

このような豊かな海の環境を保全するとともに、水産資源を保護・管理し、海の恵みと美しさを次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命であると考えます。

この度、初めて全国豊かな海づくり大会に臨み、本大会が、海などの環境保全や漁業の振興、さらには海に関わる文化の継承に果たしてきた役割と意義に思いを致し、大会に携わってこられた多くの関係者の努力に深く敬意を表します。

ここ秋田県においても、特産のハタハタの産卵場所となる藻場を作ったり、マダイやトラフグなどの稚魚を保護し育てるなどの「つくり育てる漁業」を奨励する一方、「しょつつる」など海産物を使った食文化の伝承にも積極的に取り組み、漁村や水産業の振興に努められていると聞き、心強く思います。

本日表彰を受けられる方々を始め、全国各地において日頃から豊かな海づくりに尽力されている皆さんの活動が、今後も多くの人々によって支えられ、更に発展していくことを期待します。

「海づくり つながる未来 豊かな地域」をテーマとして行われるこの大会を契機として、海や漁業への理解と関心が更に深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ秋田の地から全国へ、そして未来に向けて大きく広がっていくことを願い、私の挨拶といたします。



第39回 全国豊かな海づくり大会 受賞者一覧

【功績団体】

栽培漁業部門		
大会会長賞	北海道	沓形昆布養殖部会
農林水産大臣賞	山口県	公益社団法人山口県栽培漁業公社
環境大臣賞	秋田県	雄物川鮭増殖漁業生産組合
水産庁長官賞	山形県	山形県トラフグ研究会
資源管理型漁業部門		
大会会長賞	秋田県	秋田県漁業協同組合
農林水産大臣賞	宮城県	宮城県資源管理型漁業実践協議会
環境大臣賞	熊本県	網田漁業協同組合アサリ研究部会
水産庁長官賞	石川県	石川県漁業協同組合すず支所 すずし底曳網船団
漁場・環境保全部門		
大会会長賞	長崎県	崎山漁業集落
農林水産大臣賞	秋田県	秋田県漁業協同組合北部総括支所 岩館支所岩館浅海組合
環境大臣賞	静岡県	北限域（内浦湾）の造礁サンゴ群 落保存会
水産庁長官賞	宮城県	宮城県漁業協同組合志津川支所 戸倉青年研究会

【作文コンクール】

小学校低学年の部			
大会会長賞	小林 桜和	秋田県八峰町立八森小学校	3年
農林水産大臣賞	山下 琴子	秋田県秋田市立土崎南小学校	3年
環境大臣賞	黒木 悠登	秋田大学教育文化学部附属小学校	3年
水産庁長官賞	笹森 咲希	秋田県にかほ市立金浦小学校	3年
秋田県知事賞	佐藤 明音	秋田県大館市立桂城小学校	2年
小学校高学年の部			
大会会長賞	芦崎 絢音	秋田県八峰町立峰浜小学校	4年
農林水産大臣賞	岡本 湊斗	秋田県八峰町立八森小学校	4年
環境大臣賞	深谷 颯馬	秋田県秋田市立桜小学校	6年
水産庁長官賞	菅原 弘悠	秋田県大館市立長木小学校	5年
秋田県知事賞	鷹嶋 寿怜	秋田県由利本荘市立西目小学校	4年
中学校の部			
大会会長賞	小林 小桜	秋田県八峰町立八峰中学校	1年
農林水産大臣賞	奈良 胤美	秋田県秋田市立桜中学校	3年
環境大臣賞	田口 蓮	秋田県北秋田市立阿仁中学校	3年
水産庁長官賞	石塚 真央	秋田県由利本荘市立西目中学校	3年
秋田県知事賞	安保 美紅	秋田県秋田市立土崎中学校	2年
高等学校の部			
大会会長賞	斎藤 琉那	秋田県立秋田南高等学校	1年
農林水産大臣賞	仲澤 竣	秋田県立男鹿海洋高等学校	3年
環境大臣賞	松田 鈴	ノースアジア大学明桜高等学校	2年
水産庁長官賞	澤田 泰希	秋田県立男鹿海洋高等学校	3年
秋田県知事賞	佐藤 愛理	秋田県立秋田中央高等学校	1年

漁業における海洋プラスチックごみ問題について

増殖推進部 漁場資源課

プラスチックは、私たちの生活に利便性と恩恵をもたらしている有用な物質です。しかしながら、現在、世界全体で年間数百万トンを超えるプラスチックごみが海洋に流出していると推計されています。この「海洋プラスチックごみ」は、海洋で漂流したり、海岸に漂着したり、又は海底に堆積したりすることで、生態系、生活環境、漁業や観光等への悪影響を及ぼすことが懸念されています。

さらに最近では、「マイクロプラスチック」と呼ばれる5mm以下の微細なプラスチック類についても国際的な関心が高まっています。マイクロプラスチックの代表的なものには、洗い流しのスクラブ製品に含まれるマイクロビーズがありますが、大きなプラスチック製品が紫外線等により劣化して発生するものもあります。このマイクロプラスチックの問題は、含有・吸着する化学物質が食物連鎖の中に取り込まれることで、生態系等の海洋環境に深刻な影響を及ぼすことが懸念される一方、微細であるため、一旦海洋に流出した場合、その回収・処分が困難であることです。

このようなことから、マイクロプラスチックを含む海洋プラスチックごみの問題は、世界全体で取り組まなければならない地球規模の課題となっています。

1. 国際的な対策

海洋プラスチックごみ対策の国際的な動きとして、2015年9月の国連サミットでは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、「2025年までに、海洋堆積物や富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減すること」が持続可能な開発目標（SDGs）のターゲットの一つとし

て掲げられました。

また、G 7やG 20においても海洋ごみが議題とされ、今年6月に大阪で開催されたG 20 大阪サミットでは、海洋プラスチックごみによる新たな汚染を2050年までにゼロにすることを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有され、G 20以外の国にも共有するよう呼びかけることが合意されました。このビジョンの実現に向け、各国が協調して実効的な対策を進めることが求められています。

2. 国内での対策

我が国では、2018年6月に改正された「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境並びに海洋環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」（海岸漂着物処理推進法）において、海岸に漂着するごみだけでなく、漂流ごみ及び海底ごみが同法に基づく対策の対象となり、これらの円滑な処理及び発生の抑制、マイクロプラスチック対策の推進等が打ち出されました。

そして、今年5月31日には、「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」が関係閣僚会議で策定されたほか、海岸漂着物処理推進法に基づく「海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」の変更及び「第四次循環型社会形成推進基本計画」に基づく「プラスチック資源循環戦略」の策定が行われ、政府全体としての海洋プラスチックごみに対する具体的な取組がとりまとめられました。

そのような中、水産庁では、漁業の分野において、海洋プラスチックごみ対策やプラスチック資源循環を推進するため、昨年、漁業関係団体、漁具製造業界団体及び学識経験者の参加を得て協議会を立ち上げ、本年4月18日に、同協議会がとりまとめた「漁業におけるプラスチック資源循環問題に対する今後の取組」を公表しました。その主な内容は、(1) 漁具の海洋への流出防止、(2) 漁業者による海洋ごみの回収の促進、(3) 意図的な排出（不法投棄）の防止、(4) 情報の収集・発信であり、これらの取組は上記の「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」等にも盛り込まれています。

3. 「漁業におけるプラスチック資源循環問題に対する今後の取組」の概要

(1) 漁具の海洋への流出防止

漁業では、漁網やロープ、ブイ等の漁具に多くのプラスチック素材が使用されています。また、海上や漁港周辺等を主な事業活動の場とする漁業では、時化や荒天の際に偶発的に、又は人命に関わる事故等の発生を回避する際に不可避免的に、漁具が海洋に流出するケースがあります。海洋に流出した漁具は、海洋プラスチックごみとなることから、①使用済みの漁具は廃棄物処理法に基づき適正かつ迅速に処理すること、②使用中の漁具が流出しないよう適正に管理すること、③漁具としての使用が想定されていないプラスチック製品（洗剤容器等）を漁具として流用しないこと



図1 漂流ごみ等の回収・処理について（入網ごみ持ち帰り対策）

等適正な漁具を使用すること、が重要です。

また、水産庁では、④使用済み漁具の処理費用等による漁業者への負担を抑え、迅速かつ適正なリサイクルを促進するために、漁具のリサイクル技術の開発・普及を推進するとともに、⑤海洋に流出した漁具による環境への負荷を最小限に抑制し、漁業者の処理費用の負担を抑えるため、生分解性プラスチック等の環境に配慮した素材を用いた漁具の開発を進めています。

(2) 漁業者による海洋ごみの回収の促進

海洋プラスチックごみを含む海洋ごみは、海洋環境や海洋生態系への影響のみならず、漁業・航行上の支障となり、漁場機能の低下の原因にもなることから、漁業者は、以前から、漁場機能の維持・回復等のための海洋ごみの回収に取り組んでいるところです。これを一層推進するとともに、水産庁では環境省と連携し、環境省の「海岸漂着物等地域対策推進事業」を活用して、漁業者による操業中の漁網に入網する海洋ごみの持ち帰りを促進しています（図1）。

(3) 意図的な排出（不法投棄）の防止

使用済みの漁具等は適正に処理される必要があります。不法投棄は廃棄物処理法違反又は海洋汚染防止法違反（海上の場合）となります。関係機関による監視・取締りのほか、水産庁では一層の指導・啓発を行っています。

(4) 情報の収集・発信

我が国では、様々な地域で多種多様な漁業が営まれており、プラスチック製漁具の利用・処理実態は必ずしも明らかではないことから、水産庁ではプラスチック製漁具の利用・処理の実態調査を行うこととしています。また、発泡スチロール製フロートの減容・燃料ペレット化によるリサイクル処理や漁協等が地域で行う海岸清掃等（図2）、業界団体・企業等による自主的な取組に係る情報の発信や、マイクロプラスチックが水産生物に与える影響に関する調査を通じた科学的知見に基づく正確な情報の発信を行っています。

以上のように、漁業における海洋プラスチックごみ対策としては、漁具やプラスチックごみを海洋に流出させないこと、やむを得ず流出してしまったものについては回収に努めることが重要であり、水産庁では、漁業者の方々の御理解を得ながら、取組を推進していきます。



図2 7月13日に秋田県八峰町で開催された「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会開催記念 令和元年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式 八峰町海岸クリーンアップ」

編集後記 窓辺のカーテン

魚の食べ方

魚が一層美味しい時期になってきましたね。

ところで、魚を上手に食べられないという声を良く聞きます。

たしかに最近骨を全て処理された焼き魚や煮魚などを提供されることが多く、骨付きの魚を1匹丸々食べる機会が少なくなってきたことも一つの要因かもしれません。

私の友人が「魚を綺麗に食べる授業」を各地の小学校で開催していますが、まずは正しい箸の持ち方から始め、魚の骨や内臓がどう入っているかを教えると、みんな骨格標本の魚の様に綺麗に残さず食べるようです。

子ども達からも「魚っておいしい!」、「こんなに綺麗に食べたのはじめて!」や「同じ魚でも場所によって味が違うことを初めて知った!」などの反応があったそうです。

今晚は魚をあえてまるごと1匹買って、家族で「誰が一番綺麗に食べたか大会」を開催してはいかがでしょうか。

水産庁施策情報誌 漁政の窓

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 合同庁舎1号館8階

代表 03-3502-8111（内線6505）

URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>

ご意見 ご質問はこちらへ ➡ URL <http://www.maff.go.jp/j/apply/recp/index.html>